

今津漁港整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書

# 森遺跡発掘調査報告書

平成16年3月

島根県隠岐支庁水産局  
隠岐島後教育委員会

## 例 言

1. 本書は、隠岐島後教育委員会が島根県隠岐支庁水産局の委託を受けて、平成14・15年度に実施した今津漁港整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の報告書です。

### 2. 調査組織

調査主体	木瀬一郎	隠岐島後教育委員会教育長
事務局	斉藤弘徳	隠岐島後教育委員会社会教育課長
	藤原時造	隠岐島後教育委員会社会教育課主任（平成14年度）
	佐藤智樹	隠岐島後教育委員会社会教育課主事（平成15年度）
調査指導	島根県教育庁文化財課及び島根県埋蔵文化財調査センター	
調査員	横田 登	隠岐島後教育委員会社会教育課文化振興係長
	野津研吾	隠岐島後教育委員会社会教育課臨時職員

3. 現場における発掘作業及び遺物整理作業に参加、その他調査の実施に御協力頂いた下記の方々の名を記し、感謝の意を表します。

（敬称略）

門脇武雄	岩田良夫	滝下好一	松本由和	根本八重子	日野喜勝	新見淑子
井川京子	池田長之進	藤野喜多子	佐々木安江	金岡道子	清水和雄	藤野秀忠
高梨美穂子	佐々木菊雄	佐々木貞子	但馬 保	斉藤正敏	野津哲志	濱崎裕子

4. 本書の編集、執筆は、調査指導の先生方の指導、助言を得ながら、横田、野津が行いました。

5. 本書で使用した遺構記号は次のとおりです。

SI=堅穴住居跡    SA=棚列    SB=掘立柱建物跡    SP=ピット    SD=溝、溝状遺構  
SK=土墳

6. 挿図中の矢印は真北を指します。なお、西郷における磁気偏角度は、 $N-7^{\circ}00'-E$ です。

7. 本書中の高さはすべて海拔高で表示してあります。

## 目 次

1 調査の経過	1
2 位置と環境	2
3 調査の概要	4
4 遺構と遺物	7
5 おわりに	16

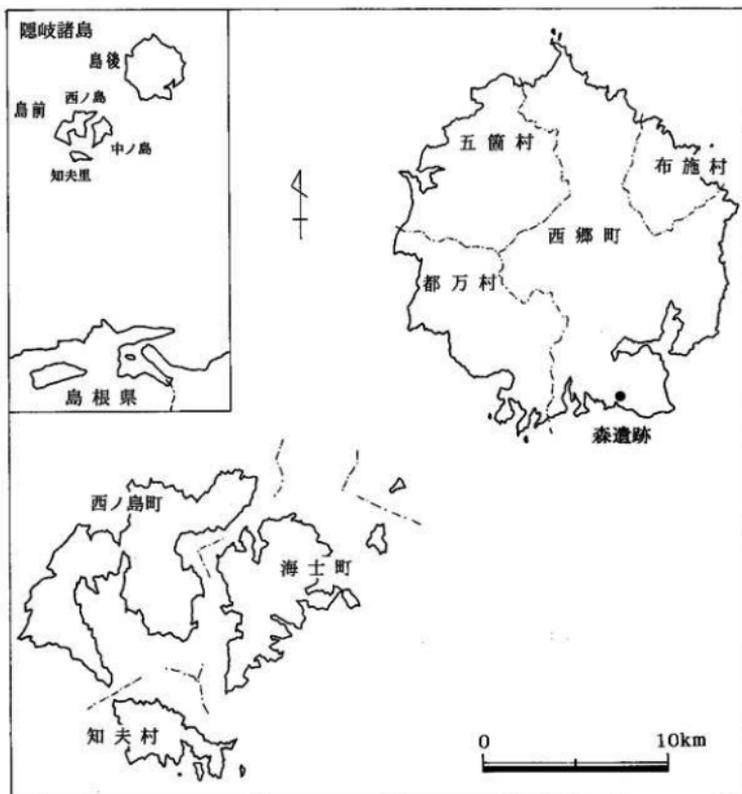
## 1 調査の経過

隠岐空港整備事業に係る埋蔵文化財の調査については、平成7・8年度に島根県教育委員会、隠岐島後教育委員会により、周辺事業地を含め分布調査を実施しました。

分布調査の結果、かなりの範囲で土器片・黒曜石片の散布を見ることができ、試掘調査を実施しました。その結果、当今津漁港整備予定地内においても遺跡の所在（森遺跡）が確認され、発掘調査を実施することになりました。この森遺跡の東側約半分は、隠岐空港整備事業に係る家屋移転先、道路建設の予定地であり平成11年度に調査を行いました。そして、今回今津漁港予定地の本発掘調査を実施したものです。

調査は、平成14年9月から始め、平成15年8月まで1年間をかけて行いました。

本書においては、当森遺跡の11年度調査地をⅠ区、14・15年度調査地をⅡ区とし、以下に概要を報告することとします。



第1図 森遺跡位置図

## 2 位置と環境

森遺跡は、隠岐諸島の中の島後と呼ばれる島にあり、島根県隠岐郡西郷町大字今津に所在します。

隠岐諸島は、島根半島の北方沖合50～80kmに散在する4つの住民島と、大小180余の無人島からなっています。4つの住民島は大別して島前、島後と呼ばれ、南西部に位置する島前は西ノ島、知夫里島、中ノ島の3島の総称です。島後というのは島後一島の呼称で西郷町、布施村、五箇村、都万村の1町3村で構成されています。島後は、群島中最大の面積(243km<sup>2</sup>)をもち、ほぼ円形に近い形をしていますが、島の南東部、北西部にそれぞれ西郷湾、重宿湾が切り込みをつくっており、天然の良港となっています。

島の地勢をみると、最高峰大満寺山(608m)を中心とする山地は起伏がはげしく、それらが海岸まで続き断崖絶壁の海岸線を作っています。その中で、北西部の五箇村、北部の西郷町中村、南部の西郷町平、西部の都万村にはまとまった平地があります。中でも西郷湾に流れ込む隠岐最長の八尾川の形成した八尾平野(西郷町平)は、隠岐最大の穀倉地帯といえます。島後の遺跡はこれら平野を取り巻くように集中しており中でも、西郷湾周辺は密集地といえます。

森遺跡の所在する今津地区は、この西郷湾の南側の谷筋を通ったところに位置し、海岸近くの標高約10～20mの緩やかな斜面上に広がっています。縄文時代～近代にかけての遺物が出土しました。

周辺の遺跡についてみると、隣接する東船遺跡では旧石器時代の遺物(黒曜石の細石刃核)が出土しており、さらに縄文・弥生から近世にかけての遺物も出土しています。

他の縄文時代の遺跡は、ほとんどが西郷湾内沿岸部に所在しています。前期を中心とする遺跡として宮尾遺跡(西郷町東郷)が、西郷湾の東湾ともいべき奥の小半島部に位置しています。時代が下るにつれて西方への移動が見られ、前期末から後期にかけての下西海岸遺跡(西郷町下西)、後期を中心とするくだりま遺跡(西郷町下西)などがあります。宮尾遺跡では条痕文土器や爪形文土器が見つっていますが、この条痕文土器は本土山陰側の佐太講武式に比定されるように、他の遺跡の縄文土器も、器形・文様等本土側と良く似た歩みが見られます。

弥生時代の遺跡としては、前期～中期の土器が月無遺跡(西郷町八田)で八尾川改修工事に見ついています。そこから下流の小高い丘陵上の大城遺跡では、スタンプ文土器が見つかっており、さらに後期の四隅突出型墳丘墓も築かれています。

古墳時代に入ると、前期の古墳はまだ見つかっていませんが、中期から後期にかけての古墳が八尾平野の西側と南側の丘陵地帯に集中しています。早い時期の古墳としては齊京谷古墳群(西郷町下西)があります。5世紀代の円墳で径約25m、鉄直刀・鉄鎌等が出土しています。6世紀に入ると、小円墳が多数築かれるようになり、また前方後円墳も造られるようになってきます。島後最大の前方後円墳としては、八尾平野の西側に平神社古墳(西郷町平)があります。全長47m、後円部径約28m、高さ5mの墳丘をもち、くびれには横穴式石室が開口しています。7世紀代には横穴式古墳も多数造られるようになります。

奈良朝以降についても、八尾平野に条里制も確認されており、八尾平野の北側丘陵には国分寺・国分尼寺跡、南側の台地には国府が所在し政治の中心地といえます。中近世については、あまり研究が進んでおらず、今後の課題といえます。

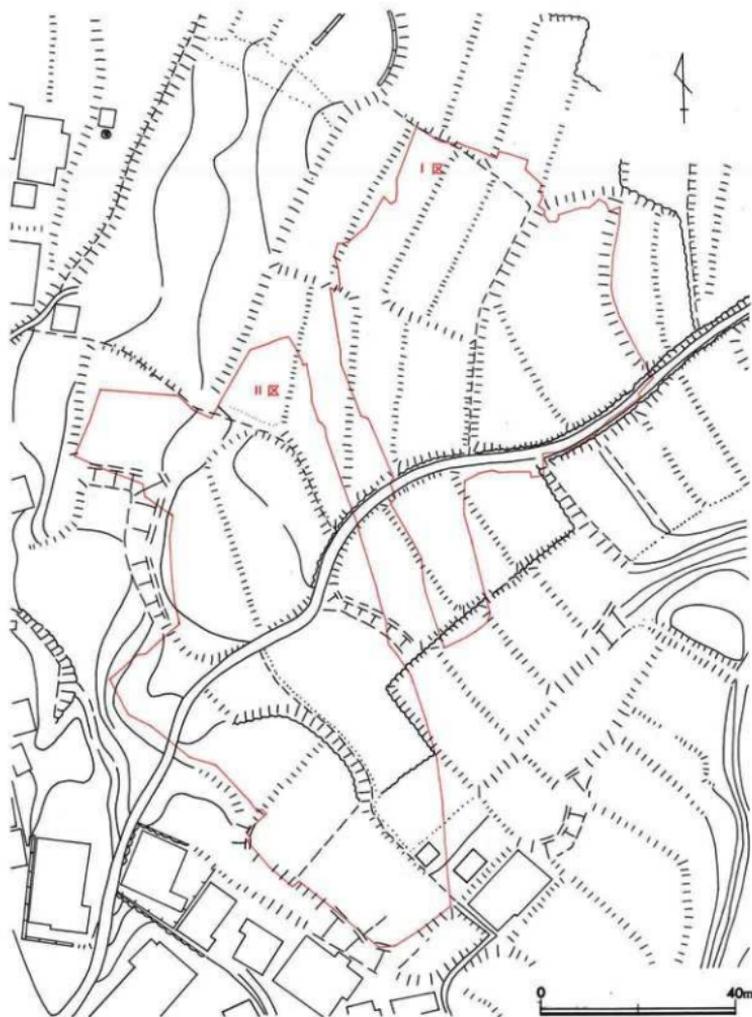


第2図 森道跡周辺の遺跡分布図

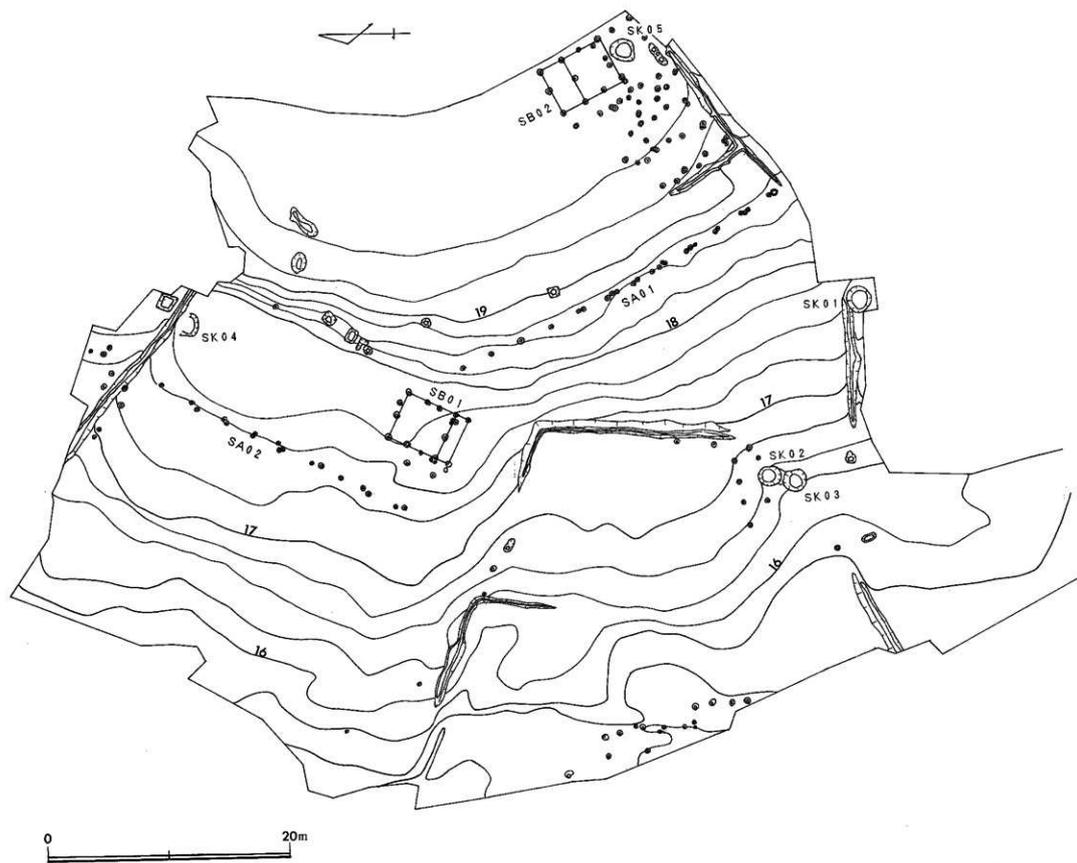
1. 船ヶ谷古墳 2. 向田古墳群 3. 隠岐園分寺 4. 野中西遺跡 5. 隠岐園分尼寺跡 6. 野中東遺跡 7. 尼寺原遺跡 8. 大光寺跡
9. 富田城跡 10. 水産高校西側横穴 11. 小田古墳 12. 飯田小学校舊古墳 13. 本先古墳 14. 平神社古墳 15. 平西古墳 16. 平東古墳群
17. 子安神社古墳 18. 中山古墳群 19. 中山遺跡 20. 八尾川流域泉屋制遺跡 21. 月無遺跡 22. 名田古墳群 23. 神米古墳群
24. 小田西光寺古墳 25. 神米遺跡 26. 宮尾遺跡 27. 宮尾古墳群 28. 津井古墳群 29. 津井海岸遺跡 30. ヒノメサン古墳群
31. 下西御崎神社古墳群 32. 柿古墳 33. 権得寺跡 34. 玉若前命神社古墳群 35. 神殿古墳群 36. 玉若前命神社境内古墳群
37. 徳城氏宅裏山古墳 38. 宮ノ前古墳 39. ハサコ古墳群 40. 高京谷南古墳群 41. 高京谷古墳群 42. 田井古墳 43. 船木原古墳群
44. 船木原遺跡 45. 甲ノ原遺跡 46. 大將軍遺跡 47. 甲ノ原古墳群 48. 白鬘古墳群 49. 下西海岸遺跡 50. 園府尾城跡 51. 栗木遺跡
52. 西郷小学校古墳群 53. 大川神社古墳 54. 登良トンネル遺跡 55. ヘギ古墳 56. ヘギ遺跡 57. 清久寺裏遺跡 58. 半崎横穴
59. 西郷公園古墳 60. 磯中学校脇古墳 61. 大塚古墳群 62. くだりま遺跡 63. 高井古墳 64. 飯ノ山横穴群 65. 奥田遺跡 66. 東船遺跡
67. 園司塚古墳 68. 御崎谷1遺跡 69. 大床遺跡 70. 御崎谷II遺跡 71. 大城遺跡

### 3 調査の概要

前述のように、I区・II区に分けて調査を実施しました。緩斜面であり、表土そのものは一部を除いては浅いものでした。また、近代の開墾等により地形が掘削を受け、遺構の遺存状態は必ずしも良い状態とは言えませんでした。



第3図 調査区配置図



第4图 I区调查区实测图

## 4 遺構と遺物

### [ 1 区 ]

#### Ⅰ 遺 構

地表下10～20cm位の比較的浅い位置で、遺構が検出されました。数多くの柱穴が見つかりました。特に、調査地東側では非常に多くの柱穴が検出されましたが、掘立柱建物跡と想定できるのは、中央部で検出されたものとあわせて2棟でした。

その他に、上溝、柵列なども検出されました。

#### SB 0 1

2間×4間の掘立柱建物跡です。埋土はかなり軟質で、柱間方径は10～30cm、残存深さも15cm程度です。柱間距離は120～200cmで不揃いであり雑な造りという感じを受けます。伴出遺物から江戸時代中後期のものと思われます。検出状況や他の遺構の状況から判断すると、住居跡とは考えにくい建物跡です。

#### SB 0 2

SB 0 1と同様な2間×3間の掘立柱建物跡です。柱間距離は180～200cmで、規則的な配置となっています。年代、性格等SB 0 1とほぼ同じと考えられます。

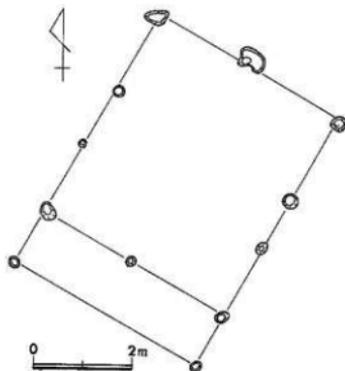
#### SK 0 1・0 2・0 3・0 4・0 5

径約150cm程の土壌が5ヶ所で見つかりました。埋土は、黒色の非常に粘性の強い軟質土です。江戸時代後期以降と思われる陶磁器片が出土しました。

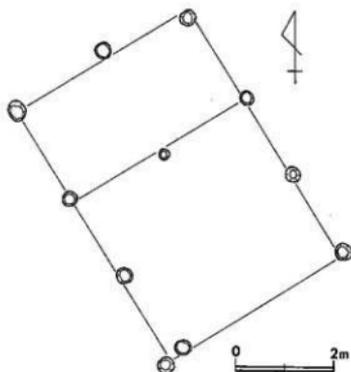
SK 0 1では、桶が埋め込まれていたようで木片が多数検出されました。細工作用の水溜めとして使用されたと考えられます。

#### SA 0 1・0 2

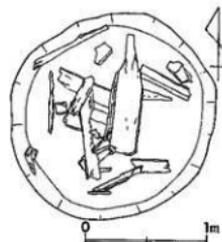
ビット列が2条検出されました。ビットそのものは小さいもので、柵列として取り上げましたが、前述の掘立柱建物跡との関係は特に見られません。元の水田、畑に端の位置に並んでおり、稲ハデ、または穀物等の乾燥の構築物と思われます。



第5図 SB 0 1実測図



第6図 SB 0 2実測図



第7図 SK 0 1実測図

## II 遺物

### 土器

古墳時代から近代にかけての遺物が出土しました。陶磁器は調査区全体で検出され量的にもかなりの量になります。土師器、須恵器は量的には少なく、調査区の西端で検出されました。

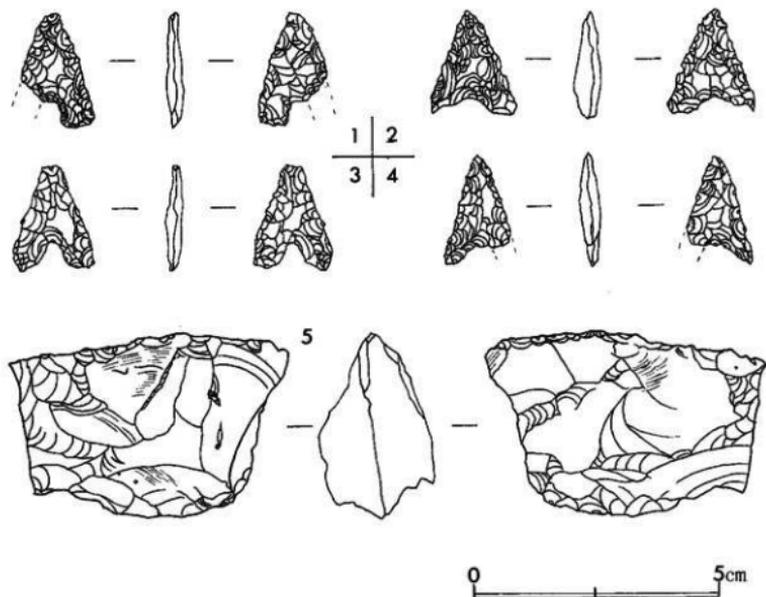
土師器は、完形品はなくいずれも小片で、僅かに形の分かるものとしては、壺の口縁部位で、古墳時代のものと思われます。須恵器は、少量で蓋環・繋の小片が出土しています。土師器と同時期のものと考えられます。

陶磁器は、多量に出土しましたが近代のものばかりでした。この調査区が、以前に田畑であったことから当時の人が残していったものと思われます。

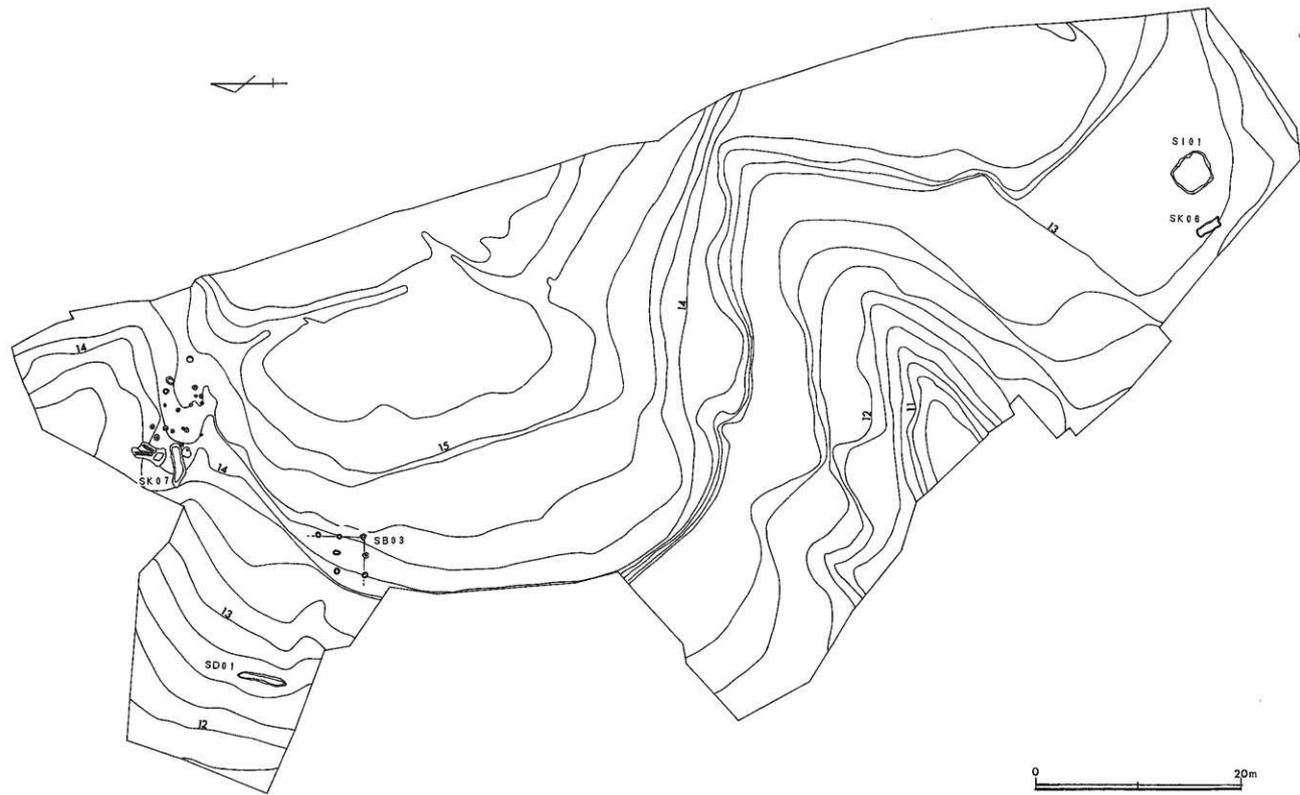
### 石器

黒曜石片が多量に出土しました。そのうち製品となるものは、石鏃が4点、石槍が1点です。石鏃は、欠損はあるものの全て無茎石鏃で、凹基式のもです。1・3は、脚端部が尖らず基部のえぐりは楕円形のもです。2は、両端縁から先端にかけて直線的に尖っており、4は、脚部が端部に向けて広がっています。

5は、黒曜石で石槍と思われるが、両端が欠損しており全体の大きさは不明です。造りは丁寧で、両面に細かい加工が加えてあります。



第8図 I区出土石器実測図



第9图 II区调查区实测图

## [ II 区 ]

### I 遺構

調査地は、東から西にかけて緩斜面になっており、数条の小尾根で構成されていたものと思われます。それが近世の開墾により数段の田畑に加工され、遺構の残存状態は良いとは言えませんでした。

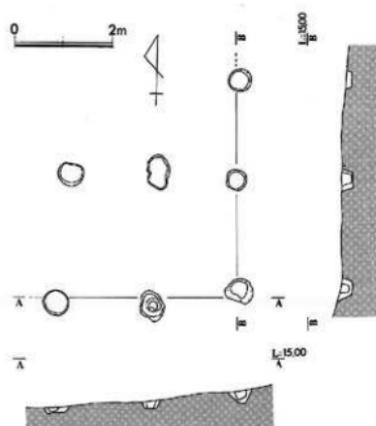
そうした中で、掘立柱建物跡1棟(SB03)、竪穴住居址1棟(SI01)、土壇2(SK06、SK07)、溝状遺構1条(SD01)が検出されました。

調査区北側では、小ピット群の検出がありました。建物跡と想定できるものはありませんでした。

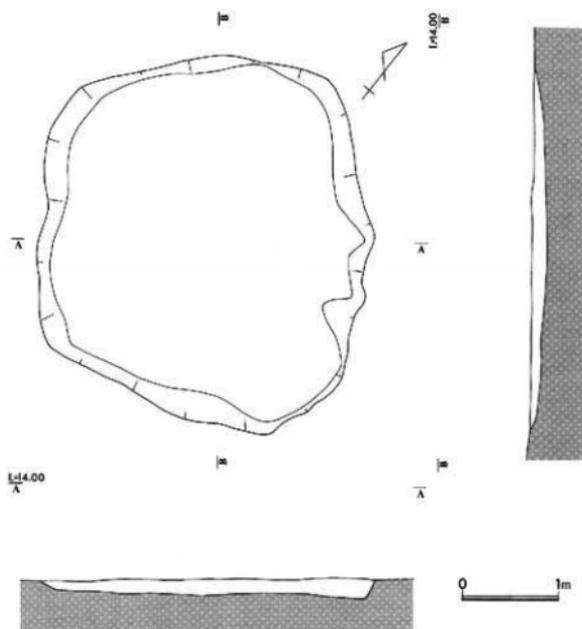
#### SB03

1間以上×2間以上の建物跡と考えられます。北西側が削平されており、1間×2間分しか検出されませんでした。総柱の建物跡の可能性もあります。

柱穴埋土はかなりしっかりしたものです。柱穴からの伴出遺物はありませんでした。周辺からは古墳時代後期のものと思われる須恵器片・土師器片が出土しました。



第10図 SB03実測図



第11図 SI01実測図

### SI01

ピットは検出できませんでしたが、遺構全体の検出状況から住居址として取扱うことにしました。

残存状態も非常に悪く、伴出遺物もなく年代的には不明です。

### SK06

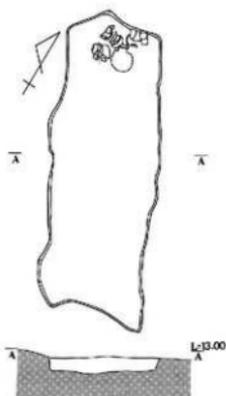
SI01に隣接して検出されました。東西0.9m、南北は2.5mで残存深さは0.1mの大きさです。北側で須恵器の提瓶、長頸壺の頸部、埴、土師器小型壺が出土しました。完形のまま埋められたものと推測され、土墳墓とも考えられます。

### SK07

土師器片は出土しましたが、性格は不明です。

### SD01

ほぼ南北にはしる浅い溝条遺構です。須恵器片、土師器片、掌大の埴が出土しました。



第12図 SK06実測図

### 土器

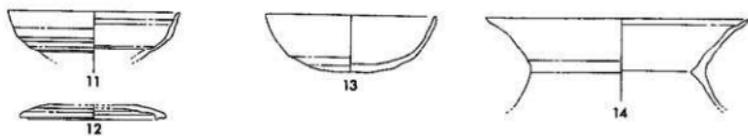
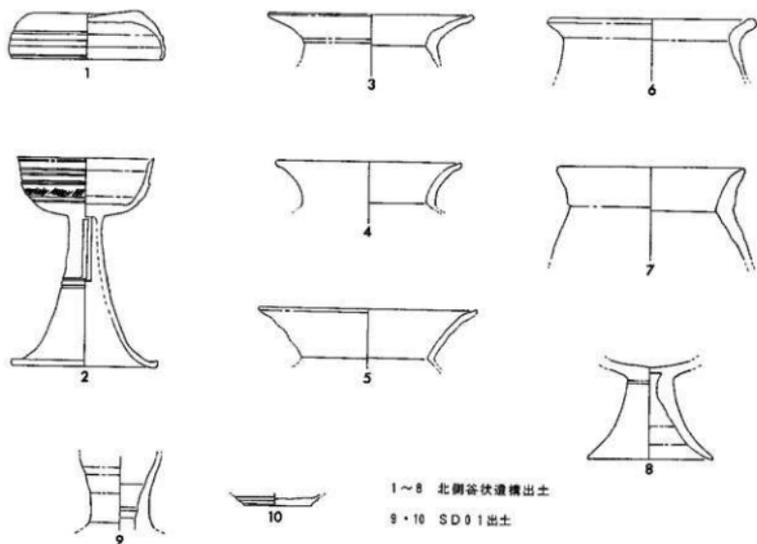
I区と同様に、陶磁器片は全体的に出土しました。遺構に伴うものとしては、SD01、SK06、北側南側の谷状遺構から土師器・須恵器が出土しました。

北側谷状遺構からは須恵器蓋環片（第13図1）、須恵器高坏（第13図2）、土師器片（第13図3・4・5・6・7）、土師器高坏底部（第13図8）が出土しました。須恵器高坏は、口縁部が少し破損している程度で、ほぼ完形に近い状態で出土しました。脚部はかなり高く、三方に透かしが入っています。土師器の口縁部は、破片から推定復原するとかなり大型の壺と思われます。

SD01からは、須恵器長頸壺（第13図9）、土師質土器底部（第13図10）が出土しました。土師質土器底部は回転糸切り痕が見られました。

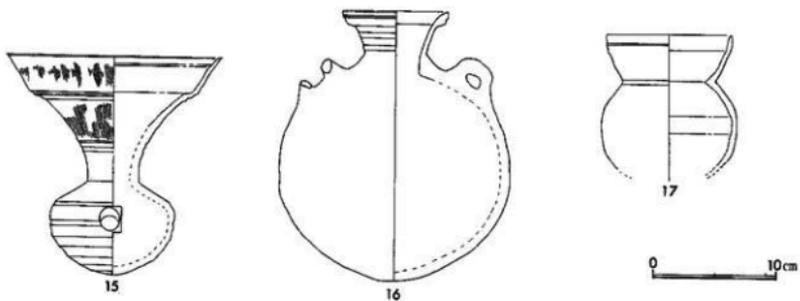
南側谷状遺構からは、流れ込みによるものと思われる土師器片、須恵器片が出土しました。須恵器蓋環はつまみは不明ですが、厚みから判断すると古墳時代後期に入るものと思われます。

SK01からは須恵器埴（第13図15）、須恵器提瓶（第13図16）、土師器壺（第13図17）が出土しました。前述のように副葬品とも考えられます。



11~14 南御谷状遺構出土

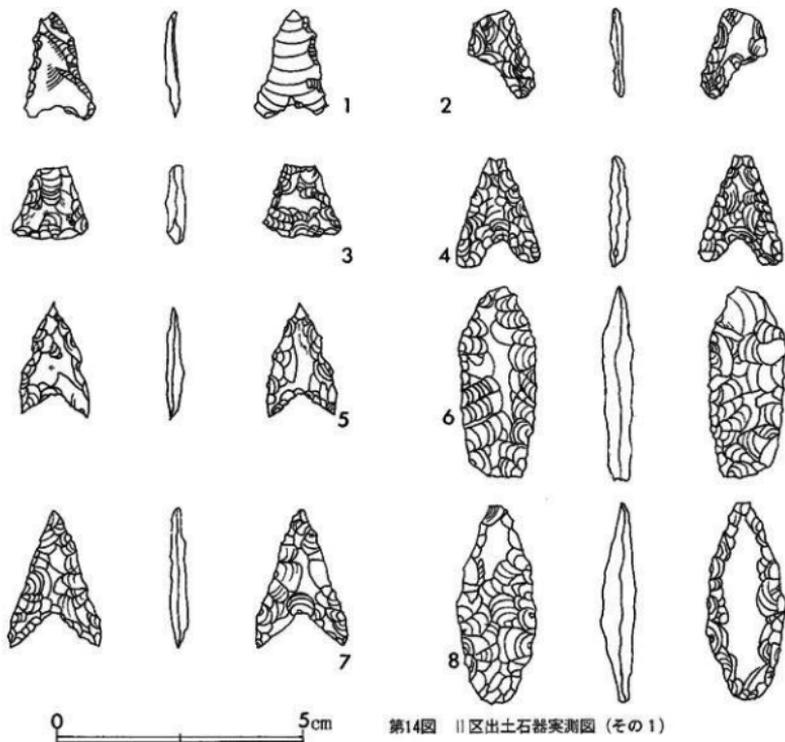
15~17 SK 0 6出土



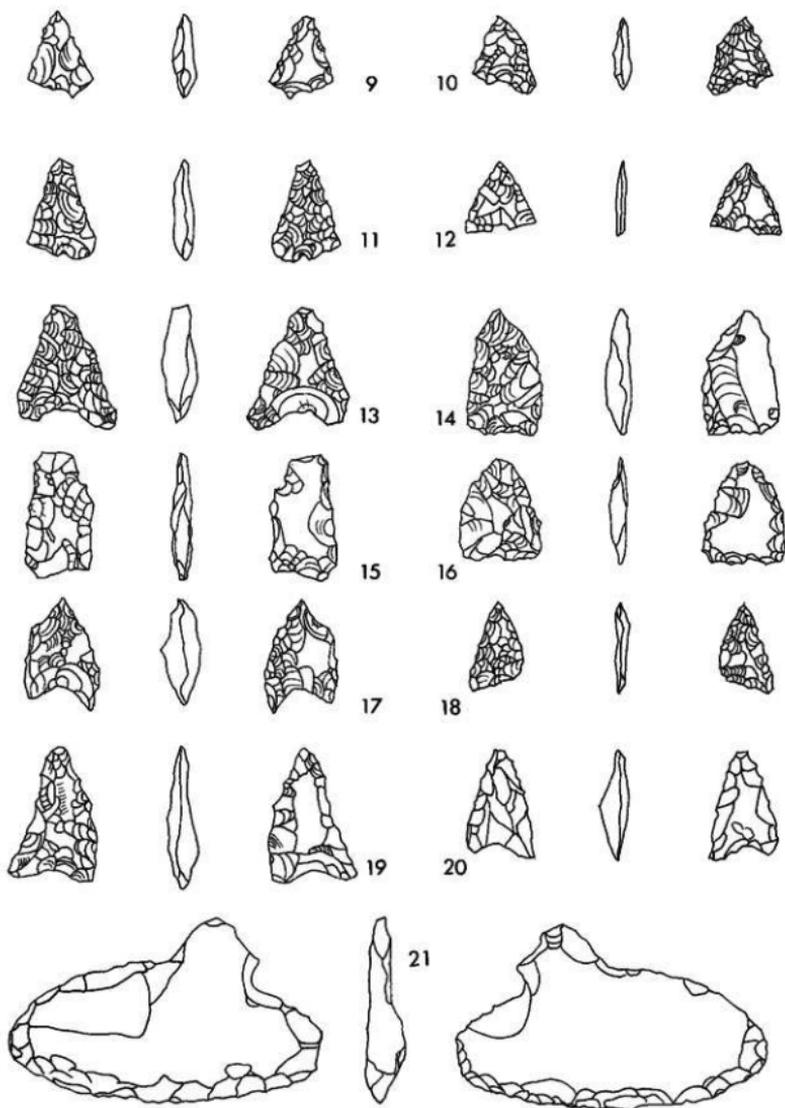
第13图 II区出土土器実測图

石器類表

No	品名	材 料	出土地	特 徴
1	石鏃	黒曜石	北側谷状遺構	剝片に少し手を加えただけのもの 未製品?
2	石鏃	"	"	非常に薄い 加工量も少ない
3	石鏃	"	"	先端部、基部共に破損はしているが、丁寧なつくり
4	石鏃	"	"	精密に加工されている
5	石鏃	"	"	先端部だけでなく、基部も鋭利に加工してある
6	ポイント	"	"	非常に丁寧に細かく加工されている
7	石鏃	"	中央西側横斜面	他のものより大きく、加工も精緻になされている
8	ポイント	"	"	裏は細かい加工が施されているが、裏はあまり加工されていない
9	石鏃	"	南側谷状遺構	雑なつくりといえる
10	石鏃	"	"	小さいものであるが、加工は丁寧である
11	石鏃	"	"	丁寧に加工されている
12	石鏃	"	"	非常に薄く、剝片に少しだけ加工がされている
13	石鏃	"	"	大きい方ではあるが、加工は雑な感じを受ける
14	石鏃	"	"	表面は加工されているが、裏をみると未製品とも思われる
15	石鏃 ?	"	"	加工はされているが石鏃になるかどうか不明
16	石鏃	"	"	加工途中と思われる もしくは失敗作?
17	石鏃	"	"	かなり厚みがある
18	石鏃	"	"	小さいものであるが、加工は丁寧である
19	石鏃	"	"	表に較べると裏は雑な加工である
20	石鏃	"	"	黒曜石としては質が悪い
21	石鏃	サヌカイト	"	端部が丁寧に加工されている 破綻後はサヌカイトはめずらしい



第14図 Ⅱ区出土石器実測図 (その1)



第15図 II区出土石器実測図 (その2)



#### 4 おわりに

森遺跡においては、旧石器時代から近世にかけての幅広い年代での遺構・遺物が検出されました。Ⅱ区においては、掘立住建物跡、土壇（土壇墓）など古墳時代が主流となっています。さらに、製品、完形品は少ないものの黒曜石、土師器の出土量は相当のものがあります。今回は特に、古墳時代の遺物が検出された層から黒曜石製の石鏃の出土も見られ、地形的に流れ込みも考えられますが、古墳時代に入っても黒曜石製の石鏃が使われていたという可能性も否定できないところです。

黒曜石について言えば、隠岐は中国地方では唯一の産出地であり、多量の出土は不思議ではありませんが、島内産地間の流通については、まだ不明の点が多く、貴重な資料となりえます。また、隣接する東船遺跡の調査成果と併せて検討することにより、当西郷町今津地区、さらに隠岐の歴史のさらなる解明に役立つものといえます。

#### 《参考文献》

- 藤田 一枝『隠岐島先史時代の遺跡について』 『隠岐郷土研究』第2号所収 昭和32年  
田中豊治『隠岐島の歴史地理学的研究』 昭和54年  
島根県教育委員会『御崎谷遺跡・大床遺跡』 2001年  
島根県教育委員会『東船遺跡Ⅰ』 2002年  
隠岐島後教育委員会『東船遺跡Ⅱ』 平成14年

調査前



森遺跡遠景（北西から）



I区近景（北東から）



II区近景（南東から）

I 区



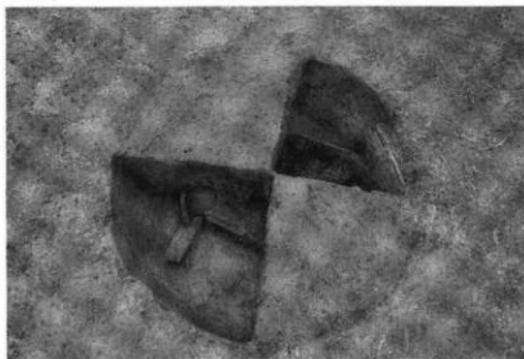
SA01・SB02 (南西から)



SB02付近のビット群 (東から)



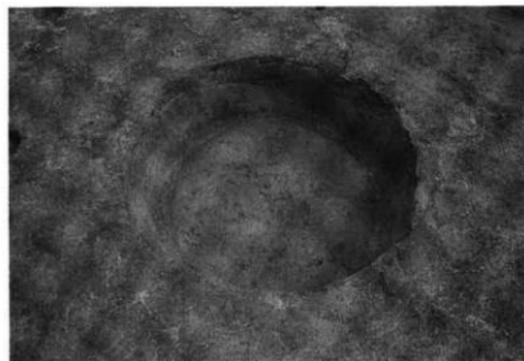
SB01 (東から)



SK01 (西から)

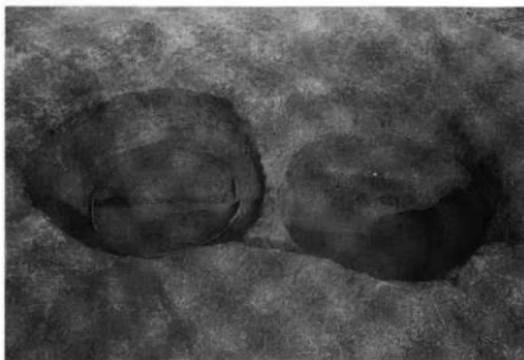


SK01 (西から)

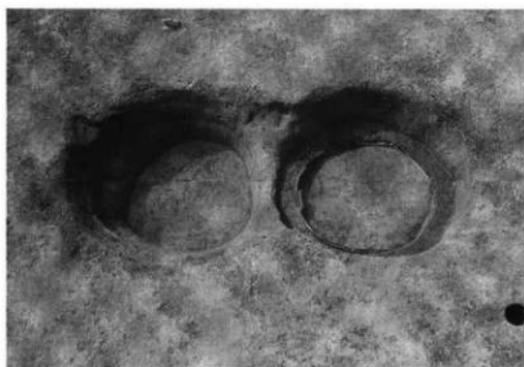


SK01完掘後 (東から)

I区



SK02・03 (西から)



SK02・03 (東から)



SK02・03 (南東から)

I区作業風景



現地説明会

II区



SB03 (西から)



SB03 (東から)



SB03 柱穴の状況

II区



SI01 (北東から)



SD01 (東から)



SD01 (北から)



SK06 遺物検出



SK06 遺物出土状況



SK06 (南東から)



北側谷状遺構遺物出土状況



北側谷状遺構遺物出土状況



北側谷状遺構完部後（東から）

II区



南側谷状遺構



南側谷状遺構出土遺物



南側谷状遺構完掘後（北東から）

II区



完掘後北側



完掘後北側中央部



完掘後北側南側

II区作業風景



遺物

※番号は本文と同一

I区出土石器

1	2
3	4
5	



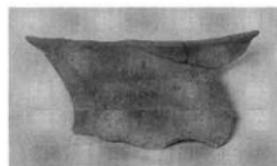
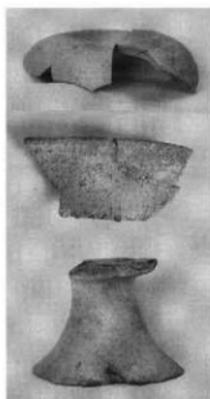
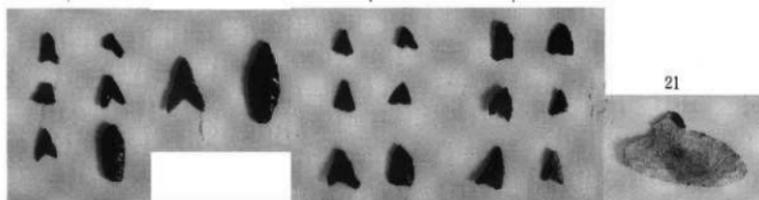
II区出土石器

1	2
3	4
5	6

7 | 8

9	10
11	12
13	14

15	16
17	18
19	20



II区出土土器

2	1	14
	4	
	8	
15	16	17



# 報告書 抄録

ふりがな	森遺跡							
書名	森遺跡							
副書名	今津漁港整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	横田登、野津研吾							
編集機関	隠岐島後教育委員会							
所在地	〒685-0011 島根県隠岐郡西郷町大字栄町1437 TEL 08512-2-2126							
発行年月日	2004年3月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m <sup>2</sup>	
森遺跡	島根県隠岐郡 西郷町大字 今津字森	32521		36度 10分 50秒	133度 17分 40秒	19990602 ↓ 19991130  20020919 ↓ 20030827	約 8,600	今津漁港整備 事業に伴う発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
森遺跡		旧石器 ～ 近世	掘立柱建物跡、 竪穴住居址 土壇		石鏃、土師器、 須恵器、陶磁器類			

今津漁港整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書  
森遺跡発掘調査報告書

---

編 集 隠岐島後教育委員会  
          隠岐郡西郷町栄町1437  
発 行 平成16年3月  
印 刷 中西印刷所  
          隠岐郡西郷町城北町270